

編 集 後 記

米国のイラク包囲と臨戦体制、北朝鮮の核施設封印解除・核拡散防止条約脱退、国内経済はデフレ対策に決め手を欠き、失業率も5.5%を記録するなど国内外とも、暗いニュースの連続で社会が沈滞気味です。今年はこの暗雲を吹き飛ばす、昨年のノーベル賞ダブル受賞のような明るいニュースを大いに期待したいところです。

エルニーニョの影響で今年は暖冬、との予報が出されていましたが、本文執筆時点で北国からは多雪の便りが届いており、雪害対策を業務の一部とする者にとっては、消雪試験ができる、内心安堵する所です。

雪の結晶は六角形ですが、気象条件で結晶の形が千変万化し、逆にその形で上空の雲の気象条件を推定できることから、「雪は天からの手紙である」と世界的に有名な日本の雪氷学者・中谷宇吉郎博士が有名な言葉を残しています。

天保年間に越後の雪と暮らしについて鈴木牧之が詳述した『北越雪譜』が示すように、北国の人にとって雪は重圧であり、じっと耐えるものでしたが、町起こしの材料として積極的に蓄熱利用し、耐雪・克雪から利雪に視点を変える具体的動きが一部地域に見られます。

さて、今月号の報文はトンネル工事に関連して、

- ・既構造物を支持し、その直下に躯体構築する。
 - ・トンネル断面を途中で変更し地上開削に伴う交通阻害等を最小限にする。
 - ・スムーズなシールド排土を行い、工事期間短縮の一助とする。
 - ・覆工コンクリートの健全度を自動計測し安全確保に反映する。
- ほか、他分野でも様々な課題に取組む状況を紹介させて頂きました。

「天からの手紙」ではありませんが、これらは様々なニーズを読取り、建設機械で具現化した一例です。

かつて、国内4輪車最後発メーカーのホンダが自動車排ガス規制である日本版マスキー法の施行を受け、“これで各メーカーが同じスタートラインに並んだ”と創始者・本田一郎を喜ばせ、世界で初めて排ガス規制をクリアしたCVCCエンジンを産み出しています。

「利雪」やこのような事例の様に、現況を脱却し跳ね返すバネとして逆転の発想を望みたいものであります。

最後になりますが、ご多忙中にも関わらず、ご執筆頂いた執筆者の方々には、改めて御礼申し上げます。

会員及び読者の皆様のご健勝と益々のご活躍をお祈り申し上げます。

(本多・奥山)

機関誌編集委員会

編集顧問

浅井新一郎	石川 正夫
今岡 亮司	上東 公民
岡崎 治義	加納研之助
桑垣 悦夫	後藤 勇
新開 節治	高田 邦彦
田中 康之	田中 康順
塚原 重美	寺島 旭
中岡 智信	中島 英輔
中野 俊次	本田 宜史
両角 常美	渡邊 和夫

編集委員長

橋元 和男

編集委員

久保 和幸	国土交通省
小幡 宏	国土交通省
池田 哲郎	国土交通省
窪 豊則	農林水産省
江藤 祐昭	原子力安全保安院
本多 明	日本鉄道建設公団
軍記 伸一	日本道路公団
門田 誠治	首都高速道路公団
坂本 光重	本州四国連絡橋公団
山崎 劭	水資源開発公団
高村 和典	日本下水道事業団
吉村 豊	電源開発
渡辺 博明	大林組
土井 重孝	鹿島
橋本 弘章	川崎重工業
岩本雄二郎	熊谷組
矢仲徹太郎	コベルコ建機
金津 守	コマツ
奥山 信博	清水建設
山口喜久一郎	新キャタピラー三菱
増子 文典	大成建設
星野 春夫	竹中工務店
加藤 謙	東亜建設工業
境 寿彦	日本国土開発
斉藤 徹	日本鋪道
館岡 潤仁	ハザマ
緒方浩二郎	日立建機

3月号予告

「ダム特集」

- ・田瀬ダム放流設備のリニューアル工事
- ・新しいコンクリート運搬工法 SP-TOM
- ・滝沢ダムにおけるCSGプラント研究
- ・加速度計とGPSを利用した締固め管理工法の高度化—神谷ダム堤体盛立坑における試験施工
- ・レール懸垂式循環バケット
- ・滝沢ダムにおける打設設備の自動化—コンクリート打設自動運転システムの概要—
- ・コンクリート切削装置「ラスパール」の開発と適用事例
- ・気化冷却設備利用によるコンクリート製造
- ・ロックフィルダムにおける基礎岩盤清掃の機械化
- ・自走式土質改良機によるパッチャプラント脱水ケーキの改良
- ・フィルダムロックゾーンのリアルタイム転圧管理システムの開発
- ・パイブレータ音を利用したダムコンクリート締固め判定

No.636 「建設の機械化」

2003年2月号

〔定価〕1部840円(本体800円)
年間購読料9,000円

平成15年2月20日印刷

平成15年2月25日発行(毎月1回25日発行)

編集兼発行人 玉光弘明

印刷所 株式会社 技報堂

発行所 社団法人 日本建設機械化協会

〒105-0011 東京都港区芝公園3丁目5番8号 機械振興会館内

電話 (03) 3433-1501; Fax. (03) 3432-0289; <http://www.jcmanet.or.jp/>

施工技術総合研究所	〒417-0801 静岡県富士市大淵 3154	電話 (0545) 35-0212
北海道支部	〒060-0003 札幌市中央区北三条西 2-8	電話 (011) 231-4428
東北支部	〒980-0802 仙台市青葉区二日町 16-1	電話 (022) 222-3915
北陸支部	〒951-8131 新潟市白山浦 1-614-5	電話 (025) 232-0160
中部支部	〒460-0008 名古屋市中区栄 4-3-26	電話 (052) 241-2394
関西支部	〒540-0012 大阪市中央区谷町 1-3-27	電話 (06) 6941-8845
中国支部	〒730-0013 広島市中区八丁堀 12-22	電話 (082) 221-6841
四国支部	〒760-0066 高松市福岡町 3-11-22	電話 (087) 821-8074
九州支部	〒810-0041 福岡市中央区大名 1-12-56	電話 (092) 741-9380